

地元SS事業者による 燃料供給体制について

2025年2月5日

石川県石油商業組合 副理事長

協和石油販売株式会社

代表取締役社長 中市 隆幸

令和6年能登半島地震の被害について



道路寸断：42路線87か所

写真左上は自分が発災当日に居た場所
のと里山海道最大の道路崩落箇所

住宅被害：91,581棟

写真右上は珠洲市宝立町の津波被害箇所
写真左下は珠洲市宝立町で液状化により
マンホールが路面から突き出した様子

断水：約11万戸

死者：457名（災害関連し含む）

（数字は令和6年12月3日石川県危機管理室調べ）

弊社所在地

本社所在地：

金沢市（青い★）

珠洲飯田店までおよそ150Km

店舗所在地：

金沢市、野々市市、輪島市、珠洲市

従業員数：46名

（内15名が奥能登地区の3店舗に勤務）

関連会社：

株式会社丸中組（一般土木、管工事）

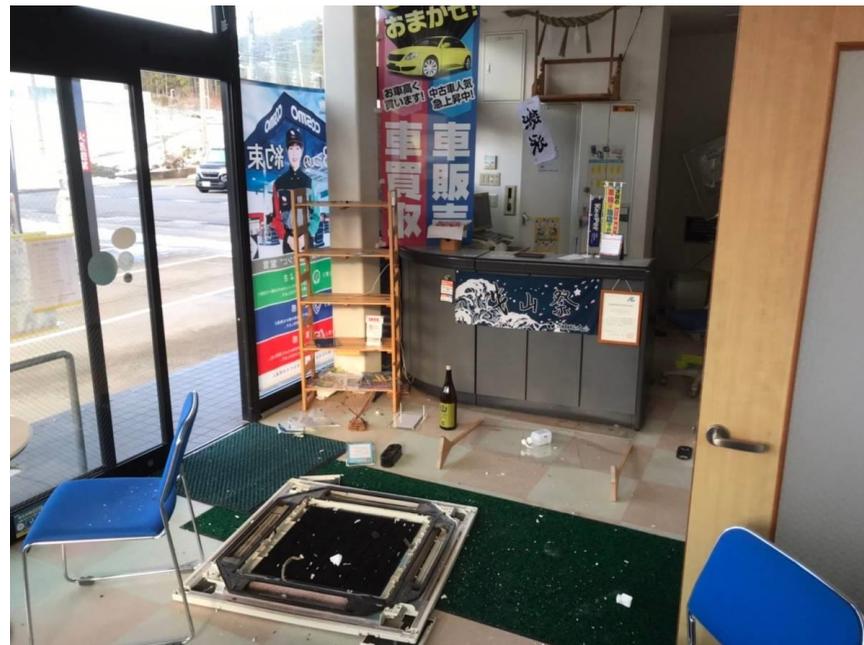
株式会社アメニテイ（産業廃棄物処理等）

株式会社ソーシン（燃料油配送）

左の地図のとおり、奥能登は細長い半島の先端。幹線道路が少ない中で、その少ない道路が寸断されたことにより、救助、支援、物流に大きな支障をもたらしました。



SSの被災状況（弊社関連設備含む）



防火塀倒壊寸前
（写真左）
珠洲給油所

エアコンカバー剥離
（写真右）
のと空港前セルフ
給油所



地下タンク損傷の
入れ替え工事
（写真左）
のと空港前セルフ
給油所



地震と津波による
油槽所タンク傾き
（写真右）
飯田港内

奥能登3店舗の被災状況と運営状況

(津波・停電・断水のため当日確認できず、2日以降順次確認)

	人的被害	物的被害		運営状況	特記事項
		給油設備	その他設備		
珠洲給油所	なし	通気管に亀裂、燃料タンクに海水混入（津波） ※ハイオクタンクのみ使用可能	①洗車機がワの字に開く（稼働不能） ②コンプレッサー故障	①ハイオクタンクをレギュラーガソリンに切り替えて使用 ②軽油・灯油は小型ローリーからの給油で運営 ※緊急車両限定営業	家屋が全壊した社員に寝泊りの場所として提供
珠洲飯田給油所	なし	地下タンク部分が隆起するものの使用可能	①サービスルームの壁とアルミサッシが分離 ②コンプレッサー故障	発災当初10日間程度は数量・金額制限で営業（3000円又は15L）	伊藤忠エネクス様に手配頂いた応援スタッフの寝泊り場所として使用（1月）
のと空港前セルフ給油所	なし	注油口のねじれ 地下水が燃料タンクに流入	①キャンピの天井板と照明器具の落下 ②コンプレッサー故障	休業中 ※直近の検査で軽油・灯油タンクの入替必須と判明	家屋が全壊した社員に寝泊りの場所として提供
飯田港タンク（グループ会社所有）	—	地面にひび割れ 地上タンク4本中1本（重油）が傾き	—	使用停止中	タンク倒壊、重油の海上流出を防ぐため、抜き取り実施中

緊急車両への給油の様子



自衛隊、消防、警察、医療チーム、電気
工事業者、通信工事業者のみならず、
車中泊している地元住民が、給油可能な
SSに殺到します。

最大で3Km、300台程度の給油待ち行
列が発生しました。

負荷分散のため、電気工事業者は
夕方閉店以降の来店をお願いしました。

(写真右上)

警察車両（バス）への給油、SSに届いた支援物資の数々



珠洲市内の津波が来て設備が一部使用できなくなったSS（写真左）
軽油はタンクローリーからの代替給油ができたため、警察車両のうち、バスなどの軽油車両は弊社に来店を促して、混雑緩和、同業他社の負荷軽減をはかりました。

1月3日から営業再開したSSの店内（写真右）
取引先からの支援物資（水、食料、衣類、カイロ）などが届きました。

ただ、上下水道の復旧が4月上旬まで掛かったため、トイレに関しては仮設トイレの設置、汲み取りが必要となりました。



現地での情報共有にはLINEグループを活用



地震発生の翌日には、現地の店長がLINEグループを作成。

被災状況の写真の共有、シフトの確認、社外からの応援状況の共有を行いました。

また、社外からの支援物資が届く都度写真でアップロードしてくれたため、現地に不足している物の手配がスムーズにできました。

現地の店舗は給油作業がひっきりなしに行われており、電話を使った通信は極力避けて、文字と写真でのやり取りを中心にしていました。

(元旦から3月末くらいまで)

災害時は人命最優先

- ・被災地での燃料供給は、現地での自衛隊、警察、消防、医療が活動するために必要な要素
 - ・悪路のため、片道 8 ～ 12 時間かけて、大型タンクローリーによる SS への燃料配送が行われました。
(運行時間は 36 協定に反する状況、運送業法の抵触も)
 - ・悪路により事故の発生確率が高まるため、運行そのもののリスクが高い
 - ・労働基準監督署から法令違反を指摘される恐れと、たった 1 回の往復しかできないのに長時間の時間外労働の支払い、それと運賃収入の採算が全く合わないという葛藤
- 弊社では、発災後 2 か月間は、金沢市から珠洲市 1 往復したら 1 日休むシフトにして対応（自宅待機として出勤と同じ扱い）
SS のシフトも営業時間外給油が増えたため、通常月 7 日休日だったが、完全週休 2 日に変更

地場SSの経済的・金銭的課題

銀行も被災し、銀行員も被災しており、閉店状態が続く

⇒釣銭が用意できず、停電でクレジットカード決済もできないため、仕方なく掛け取引とするSSもあった。

弊社では、金沢市内で釣銭を用意できたため、原則現金決済をお願いしていたが、売上金が店舗に溜まっても銀行に入金できず、気が付いたら店頭で300万以上の現金があった。

燃料の販売量に対して、掛け売りで現預金が増えないため、仕入代金の工面に苦労したというSSもあった。

停電により、手書き伝票で対応したため、漢字が難しい自治体名の書き損じ、数字の書き間違いがあり、請求漏れが生じた。

緊急車両の中でも、電気工事、通信回線工事業者は民間のため掛けでも良いか取引判断に迷うケースがあった。そしてそもそも混乱しているため、緊急車両なのかどうか判別できないこともあった。

緊急車両の表彰の監督官庁からの発行や、請求スキームの検討など、SS小規模事業者が悩まずに給油できる仕組みを作してほしい。

本日のまとめ

①「いのちだいに」まず安否、それから安全点検

本人、家族に不安があれば、業務に集中できません。

SSも人がいなければ、お店を開けることができません。

②年末、大型連休前は満タン給油

災害はいつ起きるかわかりません。ガソリン携行缶の行政単位での保有・備蓄もご検討下さい。（SS店頭には数個しかありません）

③地場のSSを大切に

中核SS、住民拠点SSの指定がなくても、私共はお店を開けて営業する努力をします。

単価の安いSSも良いですが、地場SSが閉鎖するとその地域の燃料供給が途絶える可能性もあることにご留意願います。

ご清聴、誠にありがとうございました
ございました

2025年2月5日

石川県石油商業組合 副理事長
協和石油販売株式会社
代表取締役社長 中市 隆幸